



発行所
宮城県小牛田農林高等学校内
宮城県学校農業クラブ連盟



「新型コロナウイルスからの脱却」

県連農ク会長 千葉妃乃

はじめに、今年度もこのようにFFMを発行することができたことを大変嬉しく思います。また、発表原稿依頼を引き受けてくださった皆様に御礼申し上げます。さて、今年度を振り返ってみると、新型コロナウイルス感染症が五類に引き下げられたことで前年より活発な活動ができた一年だったと思います。代議員会では全ての会を対面で行うことができ、有意義な意見交換を行いました。時間が余った際には各校輪番制のレクリエーションで親睦を深めました。絵しりとりや学校紹介クイズ、椅子取りゲームなど、個性あふれる企画が印象的でした。私は議論をする上で大事なことは、まず、相手の理解することだと考えているため、各校で取り組まれているクラブ活動や販売会について共有する時間をたくさん取らせていただきました。そして第一回代議員会では、本校の農場を案内させていただきました。このような時間を通してお互いどんな環境で実習をしているのか知り、各校の特色を理解したうえで活発な議論ができるよう、来年度からも続けて

ほしいと思います。

次に東北連盟夏季研修会は岩手県立南青少年の家で行われました。東北のクラブ員六十一名が参加し名刺交換やアイスブレイクで交流しました。また、講師の久慈千鶴子さんのお話を聞き、人前の話し方について学びました。また、分科会では「クラブ員の意識を高めるには」というテーマで話し合いをしました。他県のクラブ員と交流したことで地域の伝統を活かした取り組みを知ることができて、充実した二日間になりました。

今年度開催された第七十四回日本学校農業クラブ全国大会熊本大会では、プロジェクト発表会分野I類で宮城県農業高校さんの「#ZEROマイブラ」が最優秀賞を受賞されました。作物を栽培する際に使われている、プラスチック被覆肥料の残骸による環境汚染を阻止するため、ウレアホルムによる緩効性肥料を開発し、マイクロプラスチックゼロの革命を起したこのプロジェクト発表は、昨年に引き続き最優秀賞を受賞されており、先輩の意志を引き継ぎ、プラスチック廃棄物を無くしようと

奮闘したみなさんの努力を重ねた成果に感謝を受けました。誠にありがとうございます。また、上位大会に進出できず、悔しい思いをされた方もいることと存じます。私自身、意見発表会で東北大会に出場させていただき、結果を残すことができました。が、結果を残すことができませんでした。しかし、原稿を書くことから読む練習、質疑応答の練習を頑張ったことは思い出の大きな一ページになりました。みなさんも、結果にこだわらず、努力して得たことを大切にしましょう。

来年度の全国大会は岩手県で開催されます。宮城県もお手伝いを依頼されております。少しでも力になれるよう頑張ります。最後に、今年度も無事に全ての行事や各種大会を開催することができました。宮城県連盟の単位クラブ会長さんをはじめとする役員及びクラブ員の皆さん、顧問の先生方の多大な御指導や御支援をいただいたことに心より御礼申し上げます。三年間農業クラブで活動して得た経験は私たちの今後の人生の糧になります。そんな農業クラブを皆さんと運営できたことを誇りに思います。結びに、今後の宮城県学校農業クラブ連盟のさらなるご活躍を祈念いたします。



「小さな気づきを大きな力に」

宮城県連盟成人代表 宮城県小牛田農林高等学校
校長 長内志郎

今年度、宮城県学校農業クラブの各種競技会等にあたり、御尽力いただきました関係団体の皆様、審査員の皆様、運営担当校の先生方、クラブ員の皆様にあらためて感謝申し上げます。私自身、各種大会・競技会を可能な限り参加させていたが、選手の皆さんが互いの技術を競い、自らの考えや研究成果を堂々と発表する姿を拝見させていただき、農業の魅力や大切さを再発見するとともに、農業を学ぶ皆さんの逞しさを、頼もしさを感じる一年となりました。選手に、これからの健闘をたたえ、ともに望んでいます。

宮城県学校農業クラブの「#ZEROマイブラ革命」が二年連続の最優秀賞を獲得しました。また、家畜審査競技乳用牛の部で加美農業高

六月の家畜審査競技乳用牛の部から始まり、平板測量競技会、意見発表会、農業情報処理競技、家畜審査競技肉用牛の部、次年度代表選考に向けた乳用牛の部、そして十二月のプロジェクト発表会まで、滞りなく競技会を終えられたことは喜ばしい限りです。生徒の皆さんの御協力に改めて感謝を申し上げます。有り難うございました。

さて、十月二十五・二十六日に熊本県を会場に行われた第七十四回日本学校農業クラブ全国大会では、プロジェクト発表会I類で宮城県農業高等学校の「#ZEROマイブラ革命」が二年連続の最優秀賞を獲得しました。また、家畜審査競技乳用牛の部で加美農業高

等学校が優秀賞を、農業鑑定競技会園芸の部では宮城県農業高等学校の生徒さんが優秀賞をそれぞれ受賞されました。受賞されたクラブ員の皆様、指導をいただいた先生方、支えてくださいました関係者の皆様にあらためて感謝いたします。二年連続最優秀賞を獲得するという輝かしい成果を収めた宮城県農業高等学校の研究の出発点は、清掃活動の際に見つけた卵のような小さな物質が、実は緩効性肥料をコーティングするマイクロプラスチックで、環境汚染につながっていることに気づいたところから始まったと伺っています。肥料会社と連携した脱プラスチック肥料の開発へとつながり、世の中をも動かす大きな活動になりました。出発点となる「小さな発見」「気づき」を研究につなげることの大切さをあらためて感じる研究内容であると感じています。クラブ員の皆さんが日頃取り組んでいる農業専門科目の授業や実習、課題研究の取組の中で感じた「疑問」や「気づき」というものは、これからの農業の大きな発展や技術革新につながる第一歩になるかもしれません。千里の道も一歩から。是非小さな課題を拾い上げて、ステップアップしながら大きな課題へと挑戦し、各種競技会で活躍することはもちろん、自身の知識技術の向上につなげていきましょう。

これからも県内各単位クラブで連携をとり、お互い切磋琢磨しながら活動するとともに、地域の方々と指導して下さる先生方、そして何よりお互い協力し合うことのできるクラブ員の仲間への感謝の気持ちを忘れず、一致団結して農業クラブの魅力向上と、さらなる発展につなげていきましょう。クラブ員の皆様のこれからの活躍を期待しています。

大会スローガン

最優秀賞

「絶やす茂らせー農くの芽ー」

加美農業高等学校

農業機械科 一年 千葉 優弥

優秀賞

「花鳥風月 宮城を彩る 美しい町」

巨理高等学校

普通科・園芸コース

二年 鈴木 美生

「我らの誇り」

自然が豊かな 宮城からー」

巨理高等学校

食品化学科 二年 伊藤 桐哉

令和四年度 各種発表会

および競技会成績一覽

◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：特別奨励賞

プロジェクト発表会

十一月十四日(木) 宮城県農業高等学校

◆分野Ⅰ類「農業生産・農業経営」

○愛と辛さを求めてーオリジナル一味トウガラシ商品化プロジェクトー

小野 日向 他8名

(柴田農林・食農)

○柴農から発信！ウルトラファインバブル

水の有効活用を試みて PartⅢ

高橋 夢天 他9名

(柴田農林・園芸)

好きな野菜は「トマト」!!

マイクロトマトの魅力でトマトを好きにする活動

大串 龍 5名

(加美農業・生活)

ロッサビアンコを野菜班の名産にしよう

知名度を上げるために

太田 廣毅 他6名

(小牛田・農技)

◎#ZEROマイプラⅢ

ウレアホルムに関する研究

河東田 彩花 他9名

(宮城農業・農業)

◆分野Ⅱ類「国土保全・環境創造」

○キノコの人工交配に関する研究

富岡 みのり 他7名

(宮城農業・園芸)

○産業廃棄物の活用方法

佐藤 広望 他6名

(小牛田・農技)

○被災地での桜の開花を目指して

譜久原 翼 他9名

(宮城農業・園芸、農業)

それゆけー勇者ー!

色麻町と連携した獣害対策

高島 連 他6名

(加美農業・農機)

コンパネガーデン

極小空間に思いを込めて

星 甲太 他9名

(柴田農林・森林)

◆分野Ⅲ類「資源活用・地域振興」

○THE Beautiful

Riceー安心なお米をお届けします

鈴木 衣織 他7名

(加美農業・農業)

○バイオ炭による農業革命

平間 優希 他9名

(宮城農業・食品、農業、園芸)

継往開来 大張棚田の魅力を発信

石塚 清玲 他8名

(伊具・総合)

○千年先も共に、桜を

未来へのアプローチ 一目千本校再

生プロジェクト

中村 琉聖 他8名

(柴田農林・園芸)

アマモの有効利用を求めて

高橋 弦毅 他6名

(小牛田・農技)

意見発表会

七月十一日(火) 柴田農林高等学校・大河原産業高等学校

◆分野Ⅰ類「生産・流通・経営」

私の考える東松島市の農業

阿部 直樹 (石巻北・総合)

人と人をつなぐひと

兔内 元春 (大河原・農業)

○美味しさと生産性の両立を目指した米作り

佐藤 優香 (登米総合・農業)

○祖父流情熱型環境保全米を後世に

佐々木 愛斗 (宮城農業・農業)

○農家の長女が伝えたいこと

千葉 妃乃 (小牛田・農技)

食品ロス解決に向けて

鈴木 彩水 (南郷・産技)

命への感謝

高橋 優衣 (柴田農林・動物)

私の生活を支える農家

齋藤 紅葉 (巨理・園芸)

笑顔の酪農家

山内 春奈 (加美農業・農業)

◆分野Ⅱ類「開発・保全・創造」

手と手が繋いだ明日へ

柳田 挨拶 (南郷・産技)

食品ロスと私達の未来

松田 紗姫 (巨理・食品)

○登米市の食材の魅力を伝える私の取り組み

工藤 紗恵 (登米総合・農業)

○失敗から学ぶ農業経営

鹿野 奏生 (小牛田・農技)

土の上で生きるためには

小野 真 (柴田農林・農業)

日本のフラごみの現状

遠藤 真涼 (加美農業・農業)

十三塚公園

佐藤 陽生（大河原・農業）

◎藁が紡ぐMIRAI

星 碧虎（宮城農業・農業）

◆分野Ⅲ類「ヒューマンサービス」

配信

菅原 綾伽（登米総合・農業）

食への思い

三品 竜雅（巨理・食品）

魁！青根塾 ～青根で決めた 俺の夢～

黒田 珀翔（柴田農林・森林）

地域の伝統

小野 唯七（大河原・農業）

◎備えることの大切さを次の世代へ

鈴木 幸（宮城農業・生活）

自分のexperience

伊藤 優汰（石巻北・総合）

◎食をつなげる

小澤 輝（小牛田・農技）

◎絶滅危惧種を地域の宝に

佐々木 望（加美農業・農業）

筆甫一步 前へ

～規格外へそ大根の活用～

武者 彩乃（伊具・総合）

平板測量競技会

六月二十七日（火）加美農業高等学校

柴田農林A

佐藤慎之助・日下 智幸・吉田 滯

柴田農林B

水戸 達喜・鎌田ころろ・松浦 未空

◎宮城農業A

岩井 喬助・岩井 康助・松井 論

◎加美農業A

小山 大翔・鹿野明日夢・黒澤 翔夢

加美農業B

阿部 汐恩・今野 統也・佐藤 大介

◎小牛田 A

伊藤 未来・伊藤 結菜・佐藤 心音

小牛田 B

尾形 茅愛・佐藤 璃奈・村上 莉音

農業情報処理競技会

七月五日（水）巨理高等学校

加美農業

岡野 秀昭・角田 直優

柴田農林

伊東 優・菅原 拓斗

宮城農業

○渡部 眞夕・渡久地政春

家畜審査競技会（乳用牛の部）

令和五年度東北大会・全国大会予選会

六月二十四日（土）みやぎ総合家畜市場

○小牛田

佐竹 晴和・○森 ななか

○柴田農林

○鈴木 琴音・荻原 愛音

伊 具

木村 文音・芳賀瑛璃花

登米総合

菅原 綾伽・加美山瑠七

宮城農業

谷藤 実花

南 郷

小野寺佳乃・亀山 優衣

◎加美農業

早坂 凌雅・◎小川 恵大

大河原

齋藤 鈴・佐藤 陽生

家畜審査競技会（肉用牛の部）

八月八日（火）みやぎ総合家畜市場

南 郷

小野寺佳乃・亀山 優衣・佐々木司虎

伊 具

◎八島 遥斗・芳賀瑛璃花・渡邊 海斗

◎小牛田

○佐竹 晴和・澤村 楓・森 ななか

柴田農林

佐藤向日葵・蘇武 陽和・堀籠さくら

大河原

鈴木 鈴矢・畑山 慈音・小室 咲羽

◎宮城農業

駒嶺 明夢・瀬戸 一花・大宮 陸

◎加美農業

○櫻田 大己・山内 春奈・早坂 松頼

登米総合

菅原 綾伽・高橋 桐弥・加美山瑠七

家畜審査競技会（乳用牛の部）

令和六年度全国大会予選会

九月二十八日（木）みやぎ総合家畜市場

◎小牛田

○澤村 楓・○佐竹 晴和・森 ななか

◎柴田農林

鈴木 琴音・荻原 愛音・佐藤 唯

伊 具

石塚 清玲・佐藤 拓真・芳賀瑛璃花

◎登米総合

菅原 綾伽・高橋 桐弥・◎加美山瑠七

宮城農業

安達 優希・齋藤 茉緒・佐藤 希歩

南 郷

小野寺佳乃・亀山 優衣・佐々木司虎

加美農業

高良 琉菜・泉 海偉・佐々木有菜

大河原

水戸 起大・齋藤 鈴・鈴木 鈴矢

FFJ上級位検定

伊 具 五 名

宮城農業 一 名

柴田農林 五 名

小牛田農林 三十一 名

合計 四十二 名

全国大会熊本県で開催

◆プロジェクト発表会 分野I類「生産・流通・経営」

#ZEROマイブラ革命

最優秀賞 河東田彩花 他9名（宮城県農業高等学校）

◆農業鑑定競技会「園芸」

優秀賞 水谷 彩花（宮城県農業高等学校）

◆家畜審査競技乳用牛の部

優秀賞 小川 恵大（宮城県加美農業高等学校）

全国大会プロジェクト発表会 I類で最優秀を受賞して



宮城県農業高等学校
野 本 悠 月

私は、日本学校農業クラブの大会を振り返って分かったことがあります。それは、「自分のペースでもいいから頑張ろう」ということです。そう思ったキッカケは大会二週間前に迫った時から始まった練習を通して分かりました。私は「大会で絶対優勝して家族を喜ばせたい」と思っていました。そ

の反面、優勝しなければならぬというプレッシャーや不安に押し潰され、家庭でも一日三回の読む練習も出来ませんでした。そのような事から、不安な気持ちに負けてしまう自分が惨めに思うこともありました。しかしその時、高校一年生の時に国語の授業で習った林ナツミさんの文章を読んだ記憶が蘇りました。その文章を思い出したことで「家では練習しなくてもいいからその分、毎日の放課後に行う読み練習は休むことなく取り組もう」と決意しました。

その結果、私は本番で原稿を見ずに読むことが出来ました。更には、念願だった最優秀賞も取れました。このように、無意識の掟から縛られる苦しみ無くしたことで、私は、十月に熊本県で行われた農業クラブ全国大会農業鑑定競技園芸の部に出場しました。



宮城県農業高等学校
水 谷 彩 花

全国大会農業鑑定競技 園芸の部で優秀賞を受賞して

で、私は気持ちよく大会を締めくくることが出来ました。これから作物専攻班の未来を担う後輩も、無理せず自分のペースでいいので、頑張ることを忘れないで欲しいです。

てくる問題も多く、去年のような手応えがありませんでした。そのため、受賞する自信はほとんどなくなっていました。何とか優秀賞を受賞できていたと知り、驚きました。

目標は最優秀賞だったので、若干、悔しさは残りますが、まずは優秀賞を受賞することができた自分を認め、今回の反省点を普段の学習へも活かしたいと思っています。

ここまで支えて、応援してくださった先生や家族、友達へ深く感謝します。これからも日々の農業の勉強を大切にしていきたいです。

全国家畜審査競技に 出場して



宮城県加美農業高等学校
小 川 恵 大

農家の方がプロの技で育てた牛を見させていただいたり、学校の牛をiPadで画像にし、先生に線や図形を書き入れてもらいながら見方を教えてもらったりしました。それを何度も観て県大会に臨み県代表になることができました。東北大会では良い結果を残せませんでした。全国大会では後悔をしないように勉強をさらにする気持ちに火をつけてくれました。そして熊本県の菊池農業高校で行

われた全国大会に出場しました。競技に出ていた牛は、乳房の付着や張りも良く、鮮明に肋骨の影が浮き出ていました。乳用性の高い、洗練された良い牛ばかりで序列をつけるのがとても難しかったです。他に、全国大会で気が付いたことがあります。菊池農高が実践する衛生管理の徹底ぶりです。また、競技中は生徒達が自分達で引いて静止させていた事に感心しました。今回、全国大会では、先生や酪農家の方々にご指導いただいた成果を十分に発揮することができ優秀という結果を残すことができました。それだけでなく、多くの学びがありました。最後に、ご指導いただいた多くの方々に、感謝するとともに、自分が畜産農家としての夢を叶えることで、その恩に報いたいと思います。

全国大会意見発表会 Ⅲ類に出場して



宮城県農業高等学校
鈴 木 幸

私は、十月に熊本県で行われた農業クラブ全国大会意見発表会Ⅲ類に出場しました。私自身、暗記は苦手な文章を書くのも得意ではなく、選ばれた時は「本当に私で良いのか」と不安

になりました。しかし、校内予選から全国大会までの半年間、高校生活最後の行事や受験と並行して休みの日にも学校で練習を重ねました。そのような中、私を支えてくれたのは防災食プロジェクトと一緒に活動していた友人、指導・応援してくれた先生方、代表に選ばれた仲間、そして家族です。

全国大会のレベルは高く、入賞することは出来ませんでした。この半年間で苦しい暗記を克服し、人前で発表することに耐性もつき、自分自身を成長させることができて、とても良い経験になりました。「防災食プロジェクト」の広報活動の一環として、東北ブロックの代表として全国大会に出場することができて本当に良かったです。これからもこの経験を生かして歩み続けます。

全国大会平板測量競技に出場して



宮城県加美農業高等学校
鹿野 明日夢

私たちは二年生の春頃、先生の誘いで平板測量を始めました。まず役割を決めて流れを覚えるのに必死でした。六月下旬に行われる県大会に向けて練習をしました。二年生の県大会は優秀賞に入るこ

とができず、悔しい結果に終わりました。三年生は良い結果を残せるように春頃から練習をスタートさせました。二年生の時に気づかなかった協力し合う大切さ、仲間と話し合い作戦を立てる力が大切な事を知り、それらを意識して練習をしました。そして県大会、私たちは今まで練習した事を発揮して全力で挑みました。その結果、最優秀賞と全国大会出場権を頂きました。次に東北大会に向け、早く正確にできるように強化してきました。また、どんな図形が出てくるのか分からないので色々なパターンを練習して対応できるように頑張りました。八月に行われた東北大会は県大会と雰囲気が違うので緊張しましたが全力で取り組み優秀賞を頂きました。全国大会の練習はより複雑な図形を練習しました。仲間と協力をより強固にして、精度を上げ全国大会に挑みました。結果は優秀賞に入れず悔しい結果に終わりましたが、全国大会の雰囲気や他校の熱意を感じることができたので良い経験になりました。

全国大会熊本大会シンボルマーク



全国大会農業情報処理競技会に出場して



宮城県小牛田農林高等学校
佐々木 纏

私は、農業クラブ農業情報処理競技会に三年間出場しました。一年生の時から、二年後に開催される全国大会出場に向けて日々練習に励んできました。一年生の時は、中学生程度の知識しかなく、右も左も分からない状態でした。しかし、地道に取り組んできました。初めて参加した大会で優秀賞に入り、嬉しかったのを今でも覚えています。二年生になると反省を生かし、いかに自分が解きやすいようにすることが重要になりました。一年生の時よりも練習を積み重ね、理解力が向上したためか、解答するペースも速くなりました。三年生になり、いろいろなことに悩み、思うように練習ができなくなり不安の中で県大会に臨みました。これまでの経験が生かされ、何とか入賞して東北大会に出場が決まりました。東北大会でも競技を終えた後は、自分の結果に自信が持てませんでした。予想に反し入賞して、目標としていた全国大会に出場することができました。残念ながら全国大会では、入賞できず残念な結果になりましたが、情報

処理競技を通して様々なことを経験することができました。ここまで支えてくださった先生方には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

全国大会家畜審査競技肉用牛の部に出場して



宮城県農業高等学校
高橋 瑛

私は、十月二十五日に熊本県の菊池農業高校で開催された学校の農業クラブ連盟全国大会家畜審査競技(肉用牛の部)に宮城県代表として出場しました。家畜審査は、肉用牛の部で、経産牛、未経産牛の部それぞれ四頭ずつ基準に沿って比較し順位付けをする競技です。全国から集う選手の多さに圧倒される中、他の牛との差が少なく難しい個体があり、最後まで悩んだ順位のものもありました。宮城の和牛生産も全国に仙台牛として誇れるものがありますが、本場である九州の和牛は、肉付きや体の品位などがとても良いものでした。競技を終えて、未経産牛では月齢と体高を重点的に見てしまったのが反省点でした。もう少し部位ごとのバランスや品位、そして、将来性を注視すれば良かったです。目先の情報だけでなく先を見据え

全国大会熊本大会キャラクター「クマッカ」



て考えなければならぬと感じました。今回は、勉強不足の他、会場の雰囲気など視野の狭さによって結果に繋がらなかったと思います。とても悔しかったですが、自分の改善点など多くの学びを得ることができました。普段学ぶことの出来無い経験ができ、とても良いものとなりました。様々な知識やアドバイスを頂いた先生方にはとても感謝しています。

岩手県で東北大会開催

受賞者

◆プロジェクト発表会

分野Ⅰ類「生産・流通・経営」

最優秀賞 #ZEROマイブラ革命

河東田彩花・三浦勘太郎・野本 悠月

他7名（宮城農）

分野Ⅱ類「開発・保全・創造」

優秀賞 桜が紡ぐ笑顔の輪

原田 昌汰・大友 健慎 他8名（宮城農）

分野Ⅲ類「ヒューマンサービス」

優秀賞 Jクレジット革命

平間 優希・大泉 陽奈・高橋 愛優

他7名（宮城農）

◆意見発表会

分野Ⅰ類「生産・流通・経営」

優秀賞 祖父と父の意志を受け継いで

千葉 妃乃（小牛田農林）

分野Ⅱ類「開発・保全・創造」

優秀賞 藁が紡ぐMIRAI

星 碧虎（宮城農）

分野Ⅲ類「ヒューマンサービス」

最優秀賞 備えることの大切さを次の世代へ

鈴木 幸（宮城農）

◆クラブ活動紹介発表会

伊具高校 ONE TEAMプロジェクト

優秀賞 佐藤 拓真・武者 彩乃・芳賀瑛璃花 他2名（伊具）

◆平板測量競技会

優秀賞 鹿野明日夢・小山 大翔・黒澤 翔夢（加美農業）

◆農業情報処理競技会

優秀賞 佐々木 纏（小牛田農林）

◆家畜審査競技会乳用牛の部

優秀賞 鈴木 琴音（柴田農林）

東北大会プロジェクト発表会Ⅱ類に出場して



宮城県農業高等学校
原 田 昌 汰

私は、八月二十五日に行われた農業クラブ東北連盟大会プロジェクト発表会分野Ⅱ類で「桜が紡ぐ笑顔の輪」というスローガンのもと岩手県の盛岡市民文化ホールで発表してきました。七月に入ってから本格的に記録簿作成や発表練習を今年も暑い夏の中、部員と協力して行いました。三年生が三人とも同じクラスだということもあり、夏の実習のため三年生が部活動に参加できなくなり、後輩だけで行っているときや部員それぞれの夏休みの実習の日があり、全員が揃う日が少なくなり各自持ち帰って家での資料作成を行う日もありました。発表は一年生の頃から行ってきたので大きな不安はありませんでしたが、今回は、初めて質疑応答があり、練習でも答えがわかっていてもそれをその場で自分の言葉でまとめることが難しく、できても長い文になってしまい、質問の意図を捉えていない返答になってしまいました。それから発表練習の度に後輩や顧問の先生、OBの方々、二年前まで宮農にいらしたった尾形先生も応援に来て下さり、発表時のアドバイスをしていただきました。それらのことを無駄にしないよう自

分でもしっかりと練習に取り組み、大会に臨みました。結果は、優秀賞となり、目標としていた全国大会出場とはなりませんでしたが、最後まで諦めず、努力し、良い発表ができたと思います。これまでの三年間、科学部で学んだことで自分を大きく成長させることができました。お世話になった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

東北大会プロジェクト発表会Ⅲ類に出場して



宮城県農業高等学校
平 間 優 希

宮城県農業高等学校に入学し、新しい体験を沢山させて頂きました。その一つがプロジェクト発表です。二年生の時に初めて参加し、発表者として出場しました。同年の河東田彩花さんがリーダーになり、発表と質疑応答をする姿に凄いと尊敬してしまいました。その反面「自分では答えられない」、「来年リーダーになったら質疑応答しなくてはならない」と不安な気持ちでいっぱいでした。今年度、予想通り顧問の山根先生から「リーダーは優秀にする」と言われ、私がリーダーとなったのです。不安はありますが、やるからには全力で取り組もうと心に決めて練習に励みました。大会当

東北大会意見発表会Ⅰ類に出場して



宮城県小牛田農林高等学校
千 葉 妃 乃

私は、入学当初、畜産班を専攻していた先輩の首尾一貫したレベルの高い意見発表を見て感銘を受け、先輩のようになりたいと、三年間意見発表に尽力してきました。昨年度は本校の先輩が東北大会で最優秀賞を受賞されたため、私も先輩に追いつきたいという一心で練習に励みました。何度も原稿を書き直し、質疑応答や抑揚のある話し方、時間通りに読むなど、熱

日、他の発表者の発表を聞き、素晴らしい発表だらけで不安になりましたが、今まで練習してきたことを自信に繋げ、発表に臨みました。今までで一番良い発表になりました。時間内に終わらせ質疑応答も答えられ、やりきったと思います。発表会を通して自分が成長できたと思っています。人をまとめる力、伝える力、協力する力です。一人では何も出来ないからこそ、協力すること大きな力になることを学びました。私についてきてくれた後輩、指導してくれた先生に感謝しています。来年も継続して頑張りたいと心から願っています。

心なご指導をいただき、練習に練習を重ねました。そして迎えた東北大会。前日は動悸で眠れないほど緊張していましたが、ステージに立つと、別の競技に出場するため来ていた友達や後輩、先生方の姿が見えました。それから前日の動悸が嘘のように楽しく発表することができました。目標としていた全国大会出場、最優秀賞受賞は叶いませんでしたが、今回、目標に向かって努力したことから得た学びを卒業後に活かしていきたいと思っています。御指導くださった先生方、支えてくれた友人のみんな、本当にありがとうございました。

東北大会意見発表会Ⅱ類に参加して



宮城県農業高等学校
星 碧 虎

現在、地球温暖化は世界的な課題となっており、その中で牛が「気候犯罪者」として扱われている実情に直面し、牛肉・牛乳の生産源としての牛たちが自然の脅威に晒されていることに深い懸念を抱いています。この問題は日本にとどまらず、世界中で共通しているものであり、特に牛のゲップに含まれるメタンガスが地球温暖化の一因とされています。そこで、牛のガス排出を抑制する研究を開始し、その成果を通じて牛のイメージ向

東北大会岩手大会シンボルマーク



上と同時に環境保全への貢献を目指しています。本校を選んだのは和牛甲子園への参加を通じて地元ブランド牛「仙台牛」の知名度を高めたいという願望が強くあったからです。牛部や農業クラブでの活動を通して、牛の飼育に携わり、授業で学んだ知識を活かして環境への配慮と牛の健康管理に取り組んでいます。特に、ゲップの削減だけでなく、環境への付加価値があるならば、その取り組みを広く知らせ、共感を得ることで知名度向上にもつながるとの着眼点から研究を進めました。先生や和牛の農家の協力を得て、給餌試験を開始し、牛の生態や体内構造についての知識を日々深めています。研究の成果は文章としてまとめ、校内選抜や県大会で最優秀賞を獲得するなど、その努力と情熱が実りを結びました。全国大会への進出は叶いませんでしたが、この経験を生かして、来年度には宮農の代表として全国大会で研究成果を発表し、強い牛への情熱を示すことを目標としています。牛に対する深い理解と情熱、地球環境への貢献意識をもって、今後も研究を深めていきたいです。

東北大会クラブ活動紹介発表会で発表して



宮城県伊具高等学校
佐 藤 拓 真

私は八月に岩手で行われた農業クラブ東北大会クラブ活動紹介に四名の仲間と出場してきました。発表のテーマは「一人一人が農業クラブ員として自覚を持ち、主体的に農業クラブ活動に取り組むためにはどのような活動を行えばよいか」で伊具高校の豪雨被害からの復興を中心に、農業の力による地域交流をテーマに私たちが取り組んでいる活動を四つに分けて発表しました。この活動を通して、地域交流の大切さや農業の未来のために自分たちに何ができるかを見つめ直す絶好の機会となりました。地元の歴史を知り、へそ大根や棚田などの特産品を知ること、課題を知り、改善に向けて多くの人たちの交流を経て解決していくことで自分たちの成長を感じることが出来ました。地元の交流以外でも亘理高校さんの計らいで、情報処理の大会で発表する機会をいただき本番に備えました。発表当日では、盛岡の中心地のビルの中の一室で行い、各県の代表の生徒が各校独自の農業クラブ活動を発表している姿を見て、それぞれの課題の解決に向けて様々な取り組みをしていることを知り、多くの刺激を受けました。この大会に

出場して、仲間と協力して学校と地域の課題を知り、解決していく仕方を学びました。その中で、自分の農業の知識が不十分だと感じました。そのため、農業についてもっと学び、視野を広めていきたいと思っています。そして、これからの伊具高校と農業の未来のために頑張っていきたいです。

県平板測量競技に出場して



宮城県小牛田農林高等学校
佐 藤 心 音

私は測量競技をやっていく中で学んだことがあります。それはチームワークの大切さです。私たちが出場した測量競技とは三人で協力しないといけないため、その日のコンディションが悪いとメンバーに迷惑をかけることになりま。私は機械マンとして積極的に声をかけるように心がけました。しかし、全員の状況を見ながら声をかけるのはとても難しく、なかなか上手くいきませんでした。そこで、一人一人が自分の状況を声に出し、周りを見ながら指示することになりました。私たちにはこの方法が合っていたようです。その日から調子が上がっていききました。しかし、東北大会では良い結果で終われませんでした。他のチームと比較したときに圧倒的だったのはチームワークでした。全員が自

分の仕事を理解していて、無駄な会話がありませんでした。もっとたくさん練習して気づくべきだったと後悔しました。東北大会に出場して、チームワークには会話と視野を広く持つことが大事だと学びました。私たちの進路はバラバラですが、どの職に就いてもチームワークや会話は必要になるので、とても良い経験になりました。

東北大会家畜審査競技会乳用牛の部に出場して



宮城県柴田農林高等学校
鈴 木 琴 音

私の家は、酪農を営んでいるため、幼い頃から牛が好きでした。そのため、家畜審査競技会に興味を持ち、大会に出場することに決めました。本番までに資料を通して牛の見方について学び、実家の牛舎で、牛を見ながら学習しました。実際に牛をみることで肩、乳器の付着の善し悪しや、飛節の角度などについて立体的に学ぶことができました。大会本番、学んだことを活かし、理想の体型の牛と実際に出品された牛のイメージを重ねながら審査をしていきました。未經産牛は、体の小ささを意識しながら各部位の優劣をみていくのが難しかったです。経産牛は、理想の乳器を見極めるのに苦労しました。限られ

た時間の中で、牛の優秀をつけるのはとても難しかったです。競技の中には部位の審査があり、今回は乳器が出題されました。乳器は点数配分が大きいので、乳器が優れていれば、総体的にみても良い牛と考え、審査しました。そのため、出題された部位が乳器の場合は少し落ち着いて牛を見ることができたのではないかなと思います。その結果、東北大会では宮城県内で唯一、優秀賞を受賞できたので良かったです。

東北連盟家畜審査競技会 乳用牛の部に出場して



宮城県小牛田農林高等学校
森 ななか

東北連盟大会家畜審査競技会乳用牛の部に出場して、はじめはホルスタイン種を近くでみてみたいという軽い気持ちで県大会に出場していたため、いざ東北大会となった時に本当に良い牛を見分けることができるのか不安でした。でも、牛の見方を勉強するのは楽しくて東北大会まで不安という思いがある反面、凄く楽しみにしていたことを覚えています。東北大会に出るにあたって酪農家に足を運びたくさん勉強しました。しかし、本番になると、周りの雰囲気などで緊張してしまい、牛の見方が分からなくなってしまう、見れ

ば見るほど全ての牛が同じように見えてしまっていて、うまく見分けることが出来ませんでした。最後の結果発表での審査員の話を聞いたときに、私が見ていなかった部位がたくさんあったり、気づけなかった違いが沢山あったりと難しかったです。これからは、この経験を活かして後輩に牛の見方を伝えたり、本番で気づけなかった違いを見分けられるよう勉強していきます。

東北大会家畜審査競技会 乳用牛の部に出場して



宮城県大河原産業高等学校
佐藤 陽生

私は競技会に参加するまで家畜に関する知識や興味が全くありませんでした。友人からの誘いがきっかけで参加しましたが、その誘いがなければ自分から挑戦しようとは思わなかったと思います。今まで牛についてこんなに考えたことがなかったもので、乳牛の大きさや肉牛との骨格の違いなどを実感しながら評価のポイントなどを知ることができた一方で、牛のことを知らない自分には全て同じ牛にしか見えず、どれが良い牛なのか見当もつきませんでした。このままでは審査どころか違いを比較することもできないと焦っている、先生に「迷ったらこっちい

牛を選びなさい」と言われ、自分の直感を信じて選ぶことにしました。そして、県大会では最後まで迷った末に「これだ!」と思った牛を選び、東北大会に出場することができました。大会では初めての大会という事で極度の緊張に陥り、力を発揮することはできませんでしたが、素晴らしい牛を見せていただいた地元酪農家の方や会場を提供して下さった関係者の方々のおかげで、素晴らしい経験ができただけでなく、他県の農業高校生と有意義な交流もできたので、この経験をこれからの学校生活にも生かしていきたいと思いました。

農業情報処理競技 東北大会に出場して



宮城県農業高等学校
渡部 眞夕

私は、昨年に引き続き農業情報処理競技の宮城県大会を突破し、岩手県で開催された東北大会に出場しました。二年連続して出場できたのは、昨年の大会で指導してくださった先生から背中を押していただいたからです。今回の大会は昨年とは大きく変わったものになりました。この時代の中で情報技術も様々な変化を遂げ、求められる力が変わってきたからだと感じました。競技が始まる前に一時

間ほどの練習時間がありました。その場は競技者全員が本気で取り組んでいて県大会とは明らかに違う会場の雰囲気でもとても緊張しました。競技が始まり問題を確認するとこれまで練習してきたものとは違う系統の問題が出ました。そこで焦ってしまい、練習の成果を出し切ることができませんでした。自分の実力を最大限に出し切ることでできず、入賞することもできず悔しい思いをしました。昨年に続き悔しい結果になってしまいました。ですが、二年連続でこのような大会に出場することができて、自分のスキルアップと同時にとても良い経験をすることができました。だからあの時、来年も出場するか悩んでいた私に背中を押してくださった先生には感謝しています。この経験を生かして将来にも役立てていきたいです。

県連行事に参加して

県農業情報処理競技会に出場して



宮城県亘理高等学校
今野 希蘭侖

私は、七月に亘理高等学校を会場に開催された県農業情報処理競技会に出場しました。私は今回初めて農業情報処理競技会に参加し

ました。練習を始めるまでは、この大会がどのような大会かも分からずにいたため、ほとんど一からの練習となりました。練習は担当の先生に付き添ってもらいながら行い、平日の放課後に残って練習をしました。何も分からない状態からの取り組みでしたが、担当の先生に分かりやすく教えて頂いたおかげで、本番までになんとかコツを掴むことができました。向かえた本番当日、私は不思議にも緊張しなかった事を覚えています。自分の学校だからでしょうか。自分の持てる精一杯をぶつけ競技に臨みました。結果は優秀賞でした。最後のプレゼンテーションまでいけなかったことが本当に悔しいです。しかし、ここまで協力して下さった担当の先生のおかげだと思います。農業クラブの大会でこのような賞を取ることができて本当に嬉しかったです。

県連意見発表会に参加して



宮城県石巻北高等学校
阿部 直樹

私は県連意見発表会に参加して様々なことを体験し、出場して良かったと思っています。私は出場することに乗り気ではなく、内心「私以外にもっと素晴らしい発表があったのに」と感じていました。ですが発表に向けて



宮城県南郷高等学校
佐々木 司 虎

最初は、家畜の見方もわからな
い中で参加でした。しかし、大会

県家畜審査競技会乳用牛 の部に出場して

原稿の修正や発表の練習を行ううちモチベーションが高まりました。また周囲の応援や先生方のサポートがあり、当初抱えていた不安が自信に変わりました。発表会当日は自分のしかかる重圧で緊張しましたが運営で参加していたクラスメイトに支えられて発表に挑むことができました。会場が違っていたので私の発表を聞いてくれる友達や先生方は居ませんでしたが、一人でも十分なパフォーマンスを発揮できたと思います。私は以前から自分に自信がなく、人前に出ることを怖がっていました。しかし、高校で農クの副会長として活動に取り組むことや今回のような大会への出場を通して物事への取り組み姿勢や意欲の持ち方などの意識が変わり、私の人生に大きく役立つ経験をする事ができました。今年の四月からは農業大学校に進学しますが今まで以上に多くの人たちと接すると思います。意見発表会での経験を今後の学生生活に役立てていきたいと思っています。



宮城県迫桜高等学校
岩 渕 美 咲

リーダー研修会に参加して

に何回か出場していくうちに牛の見方を理解することができるようになりました。牛が立った時の姿勢や、月齢に応じた発育などを観て判断するというのがわかりました。しかし、頭でわかっていても緊張して、どの牛がいいのかわからなかったけど、色んな牛を見て今まで学習した知識を総動員して自分が一番良いと思った牛を選んでみたら、個人で奨励賞を取ることができました。普段、授業で家畜について学ぶことがない中で奨励賞を取ることができたのでとてもうれしかったです。来年また、家畜審査があるので、今年よりも良い結果を残せるように来年の大会に出場したいと思っています。

十二月二十六日に、小牛田農林高校を会場に宮城県農業クラブリーダー研修会が行われました。今年度は「各校の農業クラブの活性化に必要なことはなにか。」というテーマで各学校の代表がグループワークを中心に話し合いました。最初は初めて会う人がほとんどということもあり、緊張していました。徐々になじり、緊張もほぐれ、会話がスムーズになっていきました。その



宮城県登米総合産業高等学校
阿 部 誠 也

東北連夏季研修会に 参加して

後は、学校紹介の発表があり、他校の授業や農業クラブでの取り組みについて知ることができた良い機会となりました。グループワークでは各班で意見交換や役割分担はもちろん、テーマについての協議もしつかりとまとめることができました。研修会の最後には各班で話し合った内容について模造紙を利用して発表しましたが、色分けや図を使った説明など分かりやすく工夫がされており、面白かったです。各班さまざまな意見があった中で、「交流する場を増やす」という考えがどのグループでも共通しており、SNSでの情報発信などの意見も見られ、時代に合わせた発信方法も増やしていかなければいけないと感じました。今回のリーダー研修会を通して、各校代表同士もしっかり交流することができました。各校が取り組んでいる内容を活かし、今後につなげていきたいです。

私は、東北連夏季研修会に参加して様々な経験を積むことができました。最初は、同じ高校の仲間が一緒ではなかったため、この二日間自分はしつかりやって行ける



宮城県本吉響高等学校
村 田 悠 真

県代議員会に参加して

のかと不安でいっぱいでした。青少年の家に到着したあとのオリエンテーションでは、緊張しながらも自分から行動を起こして色々な人と話すことにより、その中で友達を作ることができ、不安な気持ちはなくなりました。このことから自分で行動を起こさないと何も起きないし、変わらないということとを改めて実感しました。その後、元アナウンサーの久慈千鶴子さんから話し方の講座があり、インタビューの仕方やインタビューを行う上で大切なことについてお話をいただきました。実際に私たちは周りの六人位でインタビューをしながら、伝え合うことの大切さを感じました。分科会では、各県の高校で何人かが集まり、研究討議テーマについて話し合いました。それぞれの高校の取り組みを知ることができ、参考にしたものも見つかり、とても有意義な時間となりました。私は今回の夏季研修会にて、貴重な経験や友を得ることができたので参加して良かったです。

私は、宮城県本吉響高等学校の農業クラブ会長を務めてから、以前の自分よりも成長したことが多

くあります。本校は三年生の農業クラブ員がいなかったため、二年生会長として四月に初めて代議員会に出席しました。農業に関する知識がほとんどないため、農業クラブ会長になってからは「緊張」と「不安」が入り交じっていました。しかし、代議員会に何度も参加することで響高校の代表として出席しているという、会長としての使命感を持てるようになりました。また、発言の場面では、自分たちの学校でどのような活動をしているのかを、最初の頃よりも明確に話せるようになりました。さらに十二月に行われたリーダー研修会にも参加し、名刺交換やレクレーションを行うことで他校のクラブ員の方ともいろいろなジャンルの話ができて、お互いの気持ちを共有し合えるようになり、会長として自信が持てるようになりました。農業クラブの活動を通して、このような貴重な体験をすることでとても成長したことを実感しています。来年度は、積極的に行事や大会にも参加し、さらに多くの方と交流したいと思っています。



日本学校農業クラブ連盟
マスコットキャラクター

令和5年度 宮城県学校農業クラブ連盟会計収支中間報告書

事務局 宮城県小牛田農林高等学校
自 令和5年4月1日 収入総額 3,202,217円
至 令和6年1月15日 支出総額 3,202,217円
差引残高 0円

(1)収入の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	収入済額	差 引	摘 要
繰 越 金	1,275,647	1,275,647	0	
会 費	1,896,560	1,897,400	840	県会員割@200*1671名 県学校割@1000*12校 全国会員割@380*1671名 機関誌@420*1671名 全国学校割@3000*8校@4000*3校@5000*1校 東北会員割@400*1671名 東北大会負担金@60*1671名
全国・鑑定実施基準	18,953	19,162	209	全国@528円*22冊、鑑定@319円×23冊
FFJパッチ代	13,860	0	△ 13,860	@385円×FFJ上級位合格者42名
雑 収 入	14	10,008	9,994	利子、農業教育研究会より
合 計	3,205,034	3,202,217	△ 2,817	

注：△は予算額に対して減

(2)支出の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	支出済額	差 引	摘 要
事 務 費	50,000	32,059	17,941	
内 備品・消耗品費	20,000	4,650	15,350	付箋紙、事務用品等
通 信 費	25,000	21,029	3,971	郵送料、宅配料
雑 費	5,000	6,380	△ 1,380	振込手数料
会 議 費	10,000	3,795	6,205	顧問会議
旅 費	300,904	10,770	290,134	
事 業 費	301,000	176,040	124,960	
内 県大会補助費	70,000	12,969	57,031	情報処理競技会、プロジェクト発表会
東北大会補助費	0	0	0	
東北夏期研修会補助費	0	0	0	
機関誌発行費	90,000	0	90,000	
研 修 会 費	20,000	16,020	3,980	リーダー研修会
表 彰 費	100,000	130,251	△ 30,251	単ク会長表彰等
報 償 費	21,000	16,800	4,200	外部審査員
負 担 金	1,553,360	1,554,200	△ 840	
内 全国連会員割	634,980	634,980	0	@380*1671名
全国連学校割	41,000	41,000	0	@3000*8校@4000*3校@5000*1校
機関誌購読料	707,280	708,120	△ 840	@420*1671名
東北連会員割	66,840	66,840	0	@40*1671名
東北連県連割	3,000	3,000	0	1県3,000円
東北大会負担金	100,260	100,260	0	@60円×1671名
全国・鑑定実施基準費	18,953	19,162	△ 209	全国@528円*22冊、鑑定@319円×23冊
次 年 度 準 備 金	954,880	1,406,191	0	
FFJパッチ代	13,860	0	13,860	@385円×FFJ上級位合格者42名
予 備 費	2,077	0	2,077	
合 計	3,205,034	3,202,217	2,817	

注：△は予算額に対して増

令和5年度宮城県学校農業クラブ連盟役員

生徒役員

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会 長	千葉 妃乃	(小牛田農林高校)	幹 事	佐藤 心音	(小牛田農林高校)
副会長	大久保 奏斗	(宮城農業高校)	〃	小澤 輝	(〃)
副会長	佐藤 夢希	(柴田農林高校)	〃	阿部 雄太	(〃)
監 事	鈴木 彩水	(南郷高校)	〃	佐竹 晴和	(〃)
監 事	大場 龍之助	(加美農業高校)	〃	大友 柚季	(〃)
幹 事	鈴木 りん	(迫桜高校)	〃	佐藤 楓真	(〃)
〃	龍田 一輝	(石巻北高校)	〃	高橋 碧音	(〃)
〃	太田 聖斗	(伊具高校)	〃	大子田 留海	(〃)
〃	大内 りん	(亘理高校)	〃	佐藤 優人	(〃)
〃			〃	鹿野 奏生	(〃)

成人役員

役職	氏名	所属
代 表	長内 志郎	(小牛田農林高校)
副 代 表	阿部 幸弘	(宮城農業高校)
〃	柳瀬 克紀	(柴田農林高校)
監 査 委 員	川邊 雅希	(南郷高校)
〃	齊藤 太郎	(加美農業高校)
事 務 局	浅野 武己	(小牛田農林高校)
顧問(会計)	遠藤 稔	(小牛田農林高校)
顧問(庶務)	五十嵐 賢志	(小牛田農林高校)

令和5年度 宮城県学校農業クラブ連盟 会務・事業報告

(1)関連事業 県連盟

月 日	名 称	運営校(会場)	内 容
R5. 4.20(木)	第1回代議員会	小牛田農林	令和4年度会務・事業報告 決算報告、監査報告 令和5年度会務・事業計画(案)、会計予算(案)、 県大会、東北連夏期研修会
6.7(水)	第2回代議員会	小牛田農林	東北連代議員会・全国連春季代議員会報告、 県連各種大会、東北連夏期研修会の運営
6.24(土)	家畜審査競技会(乳用牛)	登米総合、南郷 (みやぎ総合家畜市場)	乳用牛の部 令和5年度東北大会及び令和5年度全国大会 選考会(代表：加美農業)
6.27(火)	平板測量競技会	加美農業 (加美農業)	本県の全国大会出場枠は1チーム (東北連盟大会代表：加美農業、小牛田農林)
7.4(火) 7.5(水)	事前研修会 農業情報処理競技会	亘理、伊具 (亘理)	(東北連盟大会代表：小牛田農林、宮城農業)
7.11(火)	意見発表会	柴田農林・大河原産業、 石巻北 (柴田農林・大河原産業)	意見発表 I類 生産・流通・経営 (代表：小牛田農林) II類 開発・保全・創造 (代表：宮城農業) III類 ヒューマンサービス (代表：宮城農業)
8.8(火)	家畜審査競技会(肉用牛)	登米総合、南郷 (みやぎ総合家畜市場)	肉用牛の部 和牛指し手研修会同時開催
9.28(木)	家畜審査競技会(乳用牛)	登米総合、南郷 (みやぎ総合家畜市場)	乳用牛の部 令和6年度全国大会選考会 (次年度代表：登米総合)
11.7(火)	第3回代議員会	小牛田農林	東北連代議員会・全国連秋季代議員会報告、 春季代議員会提出議題、クラブ員代表者会議テーマ
12.14(木)	事前審査会 プロジェクト発表会	宮城農業高校 (宮城農業高校)	プロジェクト I類 農業生産・農業経営 (次年度代表：宮城農業) II類 国土保全・環境創造 (次年度代表：宮城農業) III類 資源活用・地域振興 (次年度代表：宮城農業)
12.26(火)	リーダー研修会	小牛田農林、道坂、本吉晋	分科会
12.26(火)	指導者研究協議会	小牛田農林	事例研究、研究協議
R6. 1.15(月)	第4回代議員会	小牛田農林	令和5年度会務・事業中間報告、 会計決算中間報告、会計監査 等
2.14(水)	FFJ検定上級位審査会	小牛田農林	審査
3.1(金)	機関誌発行	小牛田農林	F F M 6 1 号
3.29(金)	事務引き継ぎ	小牛田農林	備品、書類、印鑑

(2)関連事業 東北連盟

月 日	会 務 ・ 事 業 名	場 所
5月31日(水)	第1回代議員会	岩手県立盛岡農業高等学校
7月26日(水)、 27日(木)	夏期研修会 第2回代議員会	岩手県立盛岡南青少年の家
8月24日(木)、 25日(金)	第74回東北連盟大会	いわて県民情報交流センター (アリーナ) 他

(3)関連事業 全国連盟

月 日	会 務 ・ 事 業 名	場 所
5月25日(木)、26日(金)	春季代議員会	オリンピックセンター
10月24日(火)～26日(木)	全国大会熊本大会・秋季代議員会	熊本県

令和5年度 宮城県学校農業クラブ連盟名簿

No.	高 校 名	クラブ員数			学級数	校長名 会長名	顧問教師名
		男	女	計			
1	伊 具 高 等 学 校	10	5	15	3	齋藤 隆 太田 聖斗	清野 英俊
2	亘 理 高 等 学 校	86	66	152	6	佐藤 勝義 大内 りん	大宮 拓実
3	柴田農林高等学校	122	79	201	8	柳瀬 克紀 佐藤 夢希	須田 空流
4	宮城県農業高等学校	390	318	708	18	阿部 幸弘 大久保奏斗	木幡 洋介
5	加美農業高等学校	104	32	136	9	根岸 一成 大場龍之助	齊藤 太郎
6	南 郷 高 等 学 校	16	5	21	3	匹田 哲弥 鈴木 彩水	川邊 雅希
7	小牛田農林高等学校	141	61	202	6	長内 志郎 千葉 妃乃	五十嵐賢志
8	石 巻 北 高 等 学 校	38	12	50	2	三宅 裕之 龍田 一輝	小野 厚夫
9	登米総合産業高等学校	60	22	82	3	川上 剛弘 佐藤 優香	加藤 亘
10	迫 桜 高 等 学 校	11	21	32	2	目黒 幸治 鈴木 りん	菅原 靖史
11	本 吉 響 高 等 学 校	4	3	7	1	佐藤 正敏 村田 悠真	真壁 啓之
12	大河原産業高等学校	32	33	65	2	伊藤 直美 斉藤 鈴	津藤 弘之
合 計		クラブ数 12			クラブ員数 1,671 学 級 数 63		